



I. 母音字の音読み・訓読みの符合づけ (表3)

1. 母音字の発音の簡便な表記法

アメリカで出版されている辞書ではフォニックスと同様の発音表記法 (AHD symbols, AHD は American Heritage Dictionary の略) が使われています。その中で使われている

- ・短音記号 (breve) : お椀型の ‘’
- ・長音記号 (macron) : 横棒の ‘’

の簡便な利用方法を紹介します。アルファベットに付ける**符号**であるので、英文中の単語に直接書き込めるメリットがあります。この2つの符合だけを使うのであれば学習者の負担は軽く、実際にやってみれば実感できますが、注意すべき発音の多くを極めて簡単に、かつ正確に示すことができます。

具体的には、次のように行います。

フォニックス (Phonics)

英単語の綴りと発音のパターンを基にして発音を学ぶ方法である。発音を表記するのに、国際音声記号 (IPA) ではなく、アルファベットそのまま、あるいはアルファベットに小さな符号を付け足したものを使う。

英語では綴り／発音が一定の規則に従うものの、そのパターンは複雑であり、さらに、フォニックスは英語圏での子供を主な対象とした教育方法なので、日本人学習者にそのまま適用するのは難しい。

1) 母音字 (‘a’, ‘i’, ‘u’, ‘e’, ‘o’ および ‘y’) が1文字で母音を表している場合

例えば、pet や cat のように短音で発音するか、Pete や cake のように長母音・二重母音の長音で発音するかは、学習者が一番よく迷うところです。表3-1に示したように、短音と長音それぞれの最も頻度の高い発音を音読み、訓読みと呼び、「お椀型」と「横棒」の符号づけで区別します。

その他の (頻度の低い) 発音 (put の [u], son の [ʌ] など) については、必要に応じて、綴りの下に発音記号を書き込めばいいでしょう。

2) 2文字以上の母音字が連続する場合、あるいは母音字と ‘l’, ‘r’, ‘w’ が合わさる場合

「お椀型」, 「横棒」は使いませんが、表4で頻度の高いパターンを身につけてしまえば、例外的な場合にだけ、綴りの下に発音記号を書き込めば済むようになります。

3) 子音字の発音の表記

多くは綴りのまま発音されます。必要に応じて綴りの下に発音記号を書き込みます。

- 英単語に発音記号を付した場合、学習者は英単語 (の綴り) から目が離れ、発音記号を読み上げることになりがちである。それに対して、上で示した**符合づけ**は英単語の綴りへの補助的なものであるので、学習者は、あくまで英単語 (の綴り) を読み上げながら学習することになり、単語の発音が身につく、綴りと発音の関係も身についていく。

2. 'e' で終わる単語の最後の母音の長音化

1) 'e' で終わらない場合は短音

'e' で終わらない単語の最後の母音字は、(特に、アクセントがある場合) 短音の音読みとなり、単語の綴りの上に「お椀型」を付けて示せます。

2) 'e' で終わる場合は長音化

'e' で終わる単語の最後の母音は、長音化して[eɪ], [aɪ], [ju:], [i:], [ou] の訓読みとなり、単語の綴りの上に「横棒」を付けて示せます。表には 'i' の代わりに使われる 'y' の例も示しました。

【補足】

- ① 語尾の 'e' とは別のルールとして、重子音字 ('pp', 'tt' など) の前は短母音となるということがある。

例)	diner [dáɪnər]	dinner [dínər]
	hoping [hóʊpɪŋ]	hopping [hápɪŋ]
	later [léɪtər]	latter [lætər]

'a', 'i', 'u', 'e', 'o' および 'y' の音読み・訓読み

音読み：

1文字の母音字を短音で読む場合の、最も頻度の高い読み方で、ほぼローマ字読み (ア, イ, ウ, エ, オ) である。

ただし、'u' は、[u] (≒ ウ) よりも [ʌ] (≒ ア) となることが多いので [ʌ] を音読みとする。

また、'o' の英音 [ɒ] (≒ オ) が、米音では「ア」に近い [ɑ] となる。

訓読み：

1文字の母音字を長音で読む場合の、最も頻度の高い読み方で、アルファベット読み (エイ, アイ, ユー, イー, オウ) である。

なお、英単語の綴りで 'y' が 'i' の代わりに使われることがあるので、'y' の音読み・訓読みを 'i' と同様に、「イ・アイ」とする。